

2022年10月26日

レセプトデータを用いたアレンドロン酸錠剤製剤服用患者の
製剤規格および投与回数の安全性への影響の検討
博士課程1年 田代祥之

【概要】

これまでの研究でアレンドロン酸錠剤の後発品は、連日製剤(1day)で1週間製剤(7day)より安全性にリスクがある可能性が示唆された。成分に刺激性があるという特徴を踏まえると、製剤特性と服用回数が副作用発症に影響している可能性が考えられた。一方で、当該研究のデザインはあくまで服用開始初期の一定期間内における副作用発症割合を調べたものであり、発症までの期間や服用回数による影響は調べられていない。

前回までの検討から生存時間解析に用いられる time-varying treatment を調整したモデルを調査した。Marginal nested AFP model をはじめとするこれらの方法は因果効果の推定方法である g-methods を応用しており、使用するにはその原理の理解が必要不可欠であったため、g-formula, IP weighting, g-estimation の原理と方法を学習した。今回はそれらの紹介を行った。

参考

- Miguel AH, James MR, What if, 2020
- Ali MS, Groenwold RHH, et al., Methodological comparison of marginal structural model, time-varying Cox regression, and propensity score methods: the example of antidepressant use and the risk of hip fracture. 2016; 25(2):20
- Seaman S, Dukes O, et al., Adjusting for time-varying confounders in survival analysis using structural nested cumulative survival time models. 2020; 76(2):472